

平成 27 年 2 月 3 日

滋賀県がん診療連携協議会

平成 26 年度 第 3 回 がん登録推進部会 議事概要

日 時： 平成 27 年（2015 年）2 月 2 日（月） 16：00～17：30

場 所： 滋賀県立成人病センター 新館 11 階会議室

出席者： 目片英治、太田悦子（滋賀医科大学医学部附属病院）

代：中島英幸、代：山本慎吾（大津赤十字病院）

沖野孝、代：寺田美紀（公立甲賀病院）

寺村康史、志井千明（彦根市立病院）

東出俊一、大橋依子（市立長浜病院）

木原明生、寺田貴子、森山都子（大津市民病院）

福山歩美（草津総合病院）

大西真（近江八幡市立総合医療センター）

楠井隆、吉田孝子（長浜赤十字病院）

水田和彦、田中一史（滋賀県立成人病センター）

奥井貴子（滋賀県健康医療福祉部健康医療課）

欠席者： 土井隆一郎、森明子（大津赤十字病院）

小嶋一夫（公立甲賀病院）

土屋邦之（近江八幡市立総合医療センター）

福森亮介（済生会滋賀県病院）

堤千晴（東近江総合医療センター）

オブザーバー： 米澤寿裕（滋賀県立成人病センター）

（敬称略）

【議題等】

1. 2013 年全国集計提出データの収集結果【資料①】

- ① 病院別_診断区分および症例区分
- ② （治療前・UICC）ステージ不明
- ③ 部位別_手術療法別件数（初回治療のみ）
- ④ 原発部位別の組織診断の分布

- ・今回収集した 2013 年全国集計提出データと、今まで収集したデータ（2008 年全国集計以降）をまとめて、集計した。
- ・病院別の「診断区分」および「症例区分」による集計では、病院の特性が読み取れる。
- ・部会で取組む PDCA（正当な理由のない病期不明症例の減少）に関して、2013 年診断でも「（治療前・UICC）ステージ不明」を集計したところ、2012 年診断と同様に大腸がんで医療機関のばらつきが大きいことがわかった。今後の実務相談会等で検証していくこととする。

- ◆ 「手術療法」別の集計では、年毎に胃がん・大腸がんの腹腔鏡手術が増えていることがわかる。
- ◆ 原発部位別の「組織診断」の分布では、一部で病院ごとの偏りがみられた。要因については、病理診断の読み方やコーディングルールの理解など実務者のスキル、あるいは病理医の病理診断所見の書き方などが推測される。今後の実務相談会で「病理診断の読み方やコーディングルールの理解」について確認するとともに、来年度の実務者研修会で「病理診断所見の読み方」についての研修を企画する。

2. 収集データの活用について

- ① 院内がん登録データの精度管理
- ② がん診療連携協議会ホームページ掲載（年度内更新予定）
- ③ 他の部会への情報提供
- ④ 各病院における活用
- ⑤ 関連イベント等におけるプレゼンテーション資料

- ◆ これまでは「全国集計提出データの精度管理」が主であった。
- ◆ がん診療連携協議会ホームページに集計結果を掲載しているが、2013年診断分を加えて集計し、更新する予定である。
- ◆ 昨年度、地域連携クリニカルパスの稼働をみるため、部位別の診断数等を地域連携部会に提供した。
- ◆ その他、各施設におけるデータ活用、関連イベント等におけるプレゼン資料や学会発表にも利用した。
- ◆ 収集データは匿名化され個人を特定できる情報ではないが、病院名は含まれているので、慎重に扱う必要がある。
- ◆ データ活用について、特に要領などは定めないが、各病院の院内におけるデータ活用については、その事例を本部会に報告する。また、関連イベントや学会等でのプレゼンテーション資料としての活用についても、必ず本部会に報告する。
- ◆ 2013年全国集計提出データは、2008年以降のデータと併せて、各病院の実務者に配布済みである。

3. 今年度のアクションプランの評価【資料②】

- ◆ 今年度当初のアクションプランに対する評価としては、本部会の事業は計画どおりに達成できていることから、A評価とする。

4. 来年度事業計画について

- ① 部会開催（年3回）
- ② 実務研修会および相談会（各年3回）
- ③ 実務研修のテーマ
「病理診断所見の読み方」「生存率算定実務」など

- ◆ 来年度事業計画は本年同様の計画を予定している。
- ◆ 健康医療課および成人病センターは、来年度（平成 28 年 1 月）から始まる「全国がん登録」に関する説明会や研修会を別に開催していく予定である。

5. がん登録の法制化について【資料③】

（2015/1/15 院内がん登録初級修了者研修の資料より）

- ◆ 「がん登録等の推進に関する法律」で届出が義務付けられるのは、医療法でいう病院と県が指定した診療所等である。
- ◆ 全国がん登録の施行に際して、拠点病院および支援病院は院内がん登録全国集計に提出するデータをそのままの形で全国がん登録に提出することになり、特に新たに対応しなければならない事項はない。
- ◆ 全国がん登録の登録項目等に関する厚生労働省の省令は概要が示され、すでにパブコメ募集も終了している。項目詳細についてはまだ示されていないが、大きな変更はないと聞いている。拠点病院・支援病院には、現行の院内がん登録標準項目と同等の約 60 項目、それ以外の病院や指定診療所等については 26 項目とされている。
- ◆ この法律では、国立がん研究センターが全国の人口動態調査死亡情報を把握して全国がん登録情報と突合したうえで、各都道府県にフィードバックする。この情報が届け出た病院に還元される。現在地域がん登録から各病院に還元している予後情報は県内の情報に限られているが、全国がん登録では県外の情報も還元される。各病院は予後調査が不要になる。
- ◆ 全国がん登録の施行に伴い、院内がん登録全国集計のデータ提出時期が少しずつ前倒しされる予定である。（2014 年診断のデータ提出は 2015 年 9 月、2015 年診断は 2016 年 8 月、2016 年診断は 2017 年 7 月の予定である。）
- ◆ がん登録実務研修も変更がある。初級者研修は認定制度に変更され、修了者は 4 年毎の更新制度となる。中級者研修は従来通り行なわれるが、これも 4 年毎の更新制度となる。指導者研修は全国都道府県拠点病院に指導者がほぼ配置されたことから当面は実施されない。

6. 「がん情報しが」サイトの設置について【資料④】〈県健康医療課より〉

- ◆ 滋賀県のがん対策について県民が情報収集しやすいよう「がん情報しが」のサイト作成し、今年度内に公開する予定。
- ◆ がん登録について説明するページも設け、全国がん登録に関する説明や、本県のがん統計が閲覧できるように検討している。
- ◆ 国の情報サイトにもリンクし、がん治療のできる医療機関の検索が可能になるようにする。
- ◆ 専門職向けの研修セミナーについては、がん診療連携協議会の研修調整部会の情報サイトへのリンクを検討している。

7. 地域がん登録統計の公表について【資料⑤】

- ◆ 滋賀県がん対策基金により Web 集計システム「統計でみる滋賀県のがん」を導入し、1月下旬に県のホームページからリンクを設定した。今までの地域がん登録データをこのシステムに取込んで集計し、年次推移や医療圏別の集計結果を見ることができる。
- ◆ 県のホームページの「医療」>「医療施策」には、本県の地域がん登録統計と全国集計を比較する形で滋賀県全体の罹患や死亡、5年生存率等について公表した。
- ◆ 地域がん登録のデータ届け出件数が増え、2008年罹患以降は精度も向上した。

8. その他

以上